

どのように、手^てをあらっているのかな



あらうところは、ぜんぶで6つ

^て
1. 手のひら



2. つめ



^{おやゆび}
3. 親指のつけね



^て
4. 手のこう



^{ゆび}
5. 指のあいだ



^{てくび}
6. 手首



どんなときに、^て手をあらうのかな



まもいのち
守れるはずの命



©UNICEF/
NYHQ2003-0196/Roger LeMoyne

ユニセフがしていること



せ かい て あら ひ
「世界手洗いの日」ができたよ



©UNICEF/
NYHQ2009-0225/Josh Estey

●全体のねらい

- ・自分の手の洗いかたをふりかえり、正しい手洗いを身につけること
- ・手洗いが、日本の子どもにも世界の子どもにも、大切な衛生習慣であると知ること
- ・子どもたちの命や成長を守る取り組み（ユニセフの活動）を知ること
をねらいとしています。

●ページごとのねらい

- ・1枚目：手洗いの大切さを知り、自分の手洗いをふりかえる（問いかけ中心）
- ・2枚目：ふだんの手洗いと比べながら、洗えていない場所に気づく（問いかけ中心）
- ・3枚目：ふだんの手洗いと比べながら、洗うべきタイミングに気づく（問いかけ中心）
- ・4枚目：予防可能な病気で多くの命が失われていることを知る（読み聞かせ中心）
- ・5枚目：子どもたちの命を守る取り組みを知る（読み聞かせ中心）
- ・6枚目：せっけんを使った手洗いが世界中で広められていることを知る（読み聞かせ中心）

■おはなし

問いかけ：なぜ手洗いが大切なのかな？

手には、目に見えなくても、汚れやバイキンがついているんだ。

もし、手をきれいに洗わなかったら…。手についたバイキンが、口や目などから、体の中に入って、かぜやインフルエンザ、目の病気などをひきおこしてしまうんだ。

また、汚れた手のままで、いろいろなものにさわると、次にさわったの人の手に、バイキンや汚れがついてしまう。バイキンや汚れが広がっちゃうんだね。

だから、手を洗うことが大切なんだ。

家や学校で手を洗うことは、家族やお友達が元気であるために出来ることのひとつなんだね。

問いかけ：この写真の子は、手洗いをしているね。どんなところを洗っているのかな？

■よりくわしく

表面の写真は、学校の手洗い場で手を洗っているようすです（ウガンダ）。開発途上国の農村部では、日本のような水道はなく、井戸水や清潔に保存した雨水などを飲み、手洗いや料理、洗濯などに使っています。保護者や高学年の生徒たちが手洗いに必要な水を汲み、手洗い用のタンクに入れて使用します。右の写真は、表面の写真にも写っている手洗い設備で、手を洗っている女の子のようすです。



©日本ユニセフ協会/2010/Taketani

あらうところは、ぜんぶで6つ

■おはなし

問いかけ：みんなはどのように手を洗っているのかな？

ふだんの手の洗いかたを思い出してみよう。

実は、洗わなければいけない場所は、ぜんぶで6つあるよ。

ひとつずつ、いっしょに確認してみよう。

① 手のひら ② つめ ③ 親指のつけね ④ 手のこう ⑤ 指のあいだ ⑥ 手首

■よりくわしく

一般的に、洗い忘れがちで汚れが残りやすいのは、① つめ ② 親指のつけね ③ 指のあいだ ④ 手首 といわれています。

溝になっている部分は、特に汚れが残りがちなので、意識をして洗う必要があります。

20～30秒をかけて、せっけんを使ってこれら6箇所を洗うと、汚れがしっかりと落ちるといわれています。

(「世界手洗いダンス」は、楽しみながら自然に、6箇所を30秒弱で洗えるダンスです。)

どんなときに、手をあらうのかな

■おはなし

問いかけ：この写真の女の子は、これから手を洗うところだけど、ここはどこかな？

トイレだね。トイレのあとには、みんなもきちんと手を洗ってるかな？

問いかけ：みんなは、ほかにどんなときに手を洗っているかな？

トイレのあと、食事の前、外から帰ってきたときは、しっかりと手を洗おうね。

トイレのあと、水で指先だけをささっと洗っても、バイキンは手についたままだよ。

せっけんを使って、しっかり手を洗おうね。食事の前に手を洗うのは、食事といっしょにバイキンを口に入れない（食べない）ために大切だね。外から帰ってきたときは、バイキンを家の中や教室に持ち込まないために、手を洗う必要があるよね。

■よりくわしく

表面の写真は、学校のトイレのようすです（インドネシア）。この学校で使用されているトイレは、手動の水洗式です。

雨水などの給水設備の水が使用されています。学校に男女別のトイレをつくることは、プライバシーを守り、思春期で体に変化する女の子たちが安心して学校に通える大きな助けとなります。

男女別のトイレがあると、女の子の就学率や出席率が高くなります。

■おはなし

問いかけ：この写真の赤ちゃんを見て、気がつくことはあるかな。

この赤ちゃんは、下痢で体から水分や栄養がたくさん出ていってしまっている。

だから、体がとてもやせているんだ。もっと症状がひどくなれば、命を失ってしまう可能性もある。

世界では、1年間に590万人もの子どもたちが、5才の誕生日を迎える前に、命を失っているんだ。

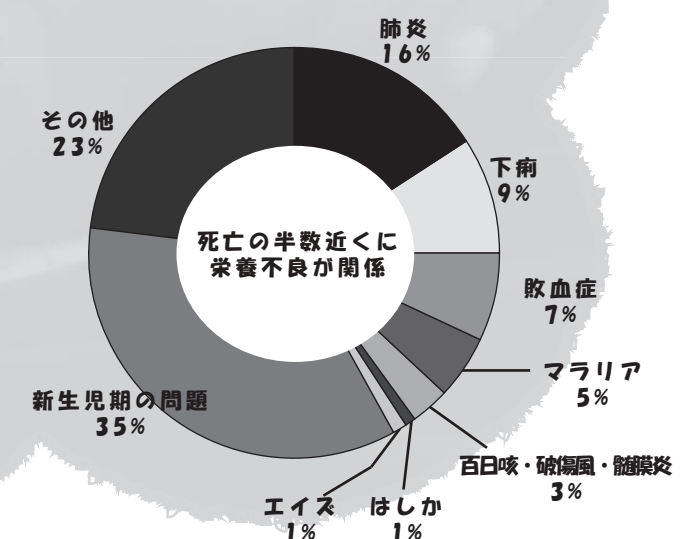
その原因の多くは、予防できる病気。この赤ちゃんがかかってしまった下痢で、毎日約1450人(年間約53万人)の子どもたちが、5才の誕生日を迎える前に、命を失っている。

もうひとつ、肺炎も子どもたちの命を奪う病気の一つ。肺炎は、毎日約2600人(年間約94万人)の命を奪っているんだ。せっけんを使った正しい手洗いは、下痢や肺炎の予防にとっても効果がある。せっけんを使った正しい手洗いが広まれば、こういった病気で亡くなる子ども100万人の命を守ることが出来るといわれているんだ。

手洗いは、子どもたちの命を守る上で、とても大切なんだね。

■よりくわしく

世界では、いまなお、年間590万人もの子どもたちが、5才の誕生日を迎えることなく、命を失っています。これらの死の半数近くに、栄養不良が関係しており、死亡の原因となる病気の多くは、予防可能な病気です。これらの病気を予防するには、衛生的な生活環境や習慣、清潔な水、蚊帳、予防接種などが有効です。表面の写真は、下痢を患っている赤ちゃんのようすです(イラク)。下痢による脱水症状を和らげるには、清潔な水に「経口補水塩(ORS)」というスポーツドリンクに似た成分の粉を溶かして飲ませることが有効です。



出典：
WHO and MCEE provisional estimates 2015

■おはなし

世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために、ユニセフは世界150カ国以上で活動をしているよ。みんなから見て、左の写真から順番に、ユニセフの活動のようすをみてみよう。ユニセフの活動は、地域の人や現地で活動しているグループ (NGO)、政府の人たちといっしょに、進められているんだ。

(聞いている人から見て)

左の写真：清潔で安全な水を飲めるように、学校や村に井戸や貯水タンクをつくるよ。

中央の写真：トイレを掃除している様子だね。トイレを使うことは、バイキンをあちらこちらに散らかさないために、とても大切なんだ。

右の写真：井戸やトイレをつくって、使うだけでなく、正しく使えるように、子どもたちや村の人たちに教えていくことも、とても大切だよ。せっかくきれいな水やトイレがあっても、汚れた手でごはんを食べれば、体の中にバイキンがはいって、病気になってしまう。病気にならないために、きちんと手を洗おう、ごみを片付けよう、と伝えて、守っていくことは、本当に大切なことなんだ。

■よりくわしく

出典：UNICEF WHO JMP 2015

現在、世界で清潔で安全な水を利用することが出来ない人は、約6億6300万人(世界の約10人に1人)います。トイレを使うことが出来ない人は、24億人(世界の約3人に1人)います。多くの開発途上国では、都市部と農村部で、水やトイレを利用できる割合の格差が大きく、農村部ほど、清潔で安全な水やトイレを利用することがむずかしくなっています。このため、ユニセフの支援活動は、農村部に重点を置いて進められています。給水設備やトイレなどの設備の建設や整備に加え、衛生習慣を教え、広めることはとても大切です。せっかく設備があっても、正しく使われなければ、その恩恵を十分に受けることはできません。衛生への意識を高め、正しい衛生習慣が病気の予防に役立つことを理解してもらい、取り入れてもらえるよう、学校の先生やヘルスワーカー、ボランティアの人などが中心となって、さまざまな啓発活動が行われます。

(聞いている人から見て)

写真左：井戸の水を飲む女の子 (インド) 写真中：学校のトイレをそうじする男の子 (コンゴ共和国) 写真右：カードを使って、手洗いなどの衛生習慣を説明しているようす (コンゴ共和国)

■おはなし 「世界手洗いの日」ができたよ

せっけんを使った正しい手洗いは、みんなや世界の子どもが、病気になるずに元気に過ごすために、とても大切で、自分で取り組めることなんだ。もっと多くの大人や子どもたちに、手洗いの大切さと、せっけんを使った正しい手洗いをしてもらおうと、2008年に、ユニセフや大学、企業などがいっしょに、毎年10月15日を「世界手洗いの日」と決めたんだ。毎年、世界の100カ国以上で、たくさんの子どもたちが、手洗いの大切さを学んでいるよ。

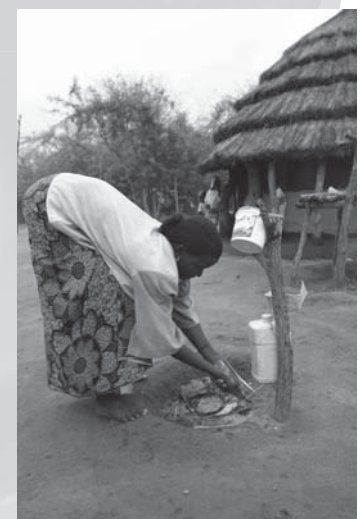
日本の子どもたちに、楽しく、正しい手洗いを身につけてもらおう、と考えられたのが、「世界手洗いダンス」。これから、みんなでいっしょにダンスを踊って、正しい手洗いをあっという間に覚えてみよう。(世界手洗いダンスの映像をご覧ください。)

■よりくわしく

せっけんを使った手洗いは、費用の面から取り組みやすく、効果が高い取り組みです。農村部では、せっけんを買える場所が限られていたり、買うお金がないこともあります。このような場合には、灰をせっけんの代わりに使うことをすすめています。灰のもつアルカリ性は、汚れがもつたんぱく質をとかす作用を持っています。(農村部では、調理などで火をおこすので、灰は簡単に手に入ります。) 清潔な水の入手が困難な地域は多くありますが、せっけんを使った手洗いは、多くの病気の予防に効果があります。ユニセフは、学校や家庭で適切な手洗いが行われるよう、設備の整備と衛生習慣の啓発活動を並行してすすめています。

右の写真は、自分でつくった自宅の手洗い場で灰を使って手洗いをしている女性のような様子です(ウガンダ)。

自分の身の回りで手に入るものを使って、自分で作った手洗い場です。避難民キャンプでもらった料理用の油が入っていた容器に、井戸からくんできた水をいれます。手洗いをするときに釘を外すと、穴から水が出てくるシンプルな手洗い設備です。



©日本ユニセフ協会/2010/Taketani